

## 感動旅の葉-2（中国・敦煌 編）

鈴木隆司 記

”成田発 感動の旅-ing” と題してブログをアップしてきた。その中から、印象的だった写真を旅の葉として綴ります。

### 今回の紹介： 中国甘肅省・敦煌の編

敦煌市(とんこうし)は、中国甘肅省北西部の都市。かつてシルクロードのカスピ海、イラン、アフガニスタンへ行く分岐点として栄えた、ゴビ砂漠の中にあるオアシス都市。その先には、死の世界・タクラマカン砂漠が広がる。



嘉峪関を朝4時に出発。舗装道路が少なく、土漠を整地しただけの道路上をバスが疾走する！  
4時間後だった、ようやく朝日が昇り始めた  
飛行機なら1時間の道程だが、バス移動では悲鳴が出る、9時間あまり。腰が壊れそう！  
(2年後に行った人が言うには、高速道路が完成されており、快適だったと)



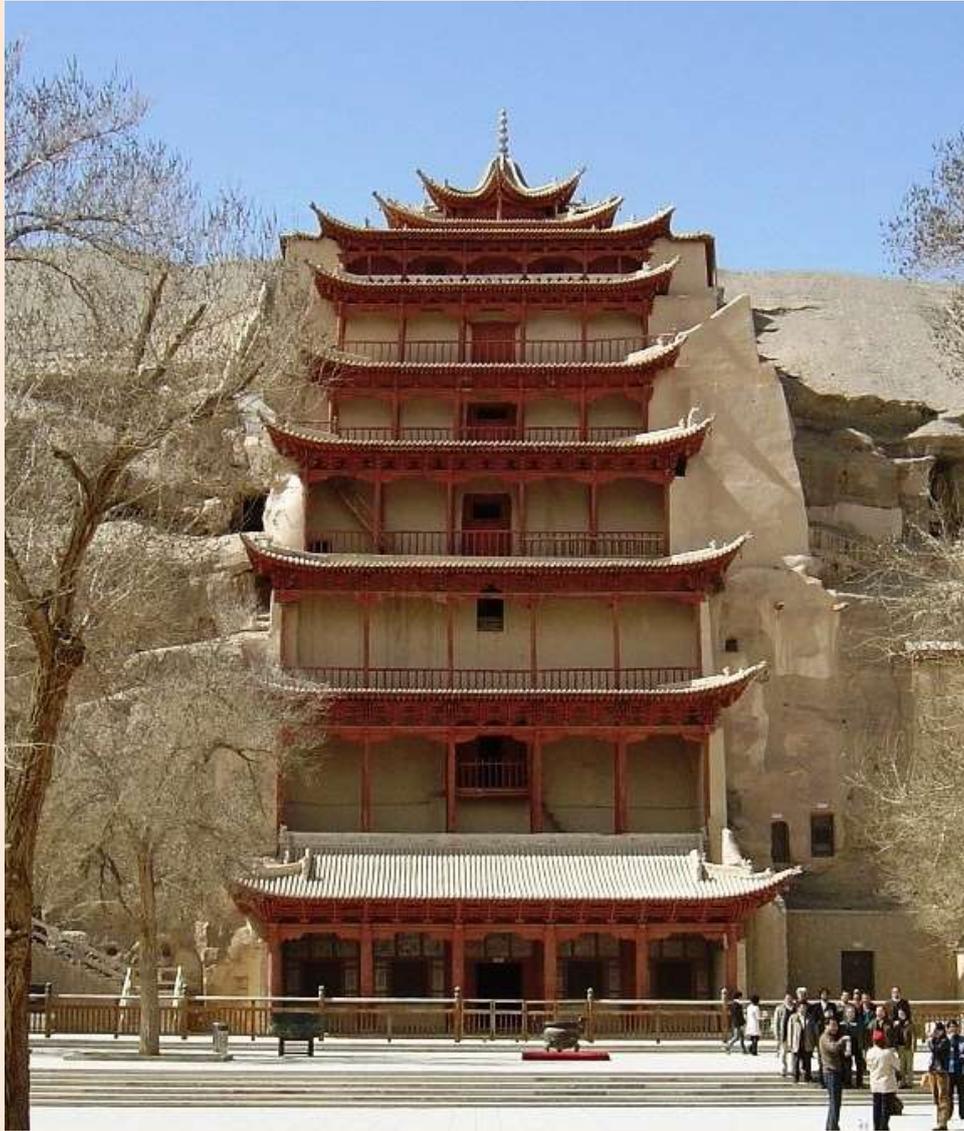
地平線まで延々と真っ直ぐに伸びる一応、舗装道路の部分



中國奥地らしく、のんびりとした羊飼いのオジさんが行く手を遮る。  
止む無く、気長にただ待った。



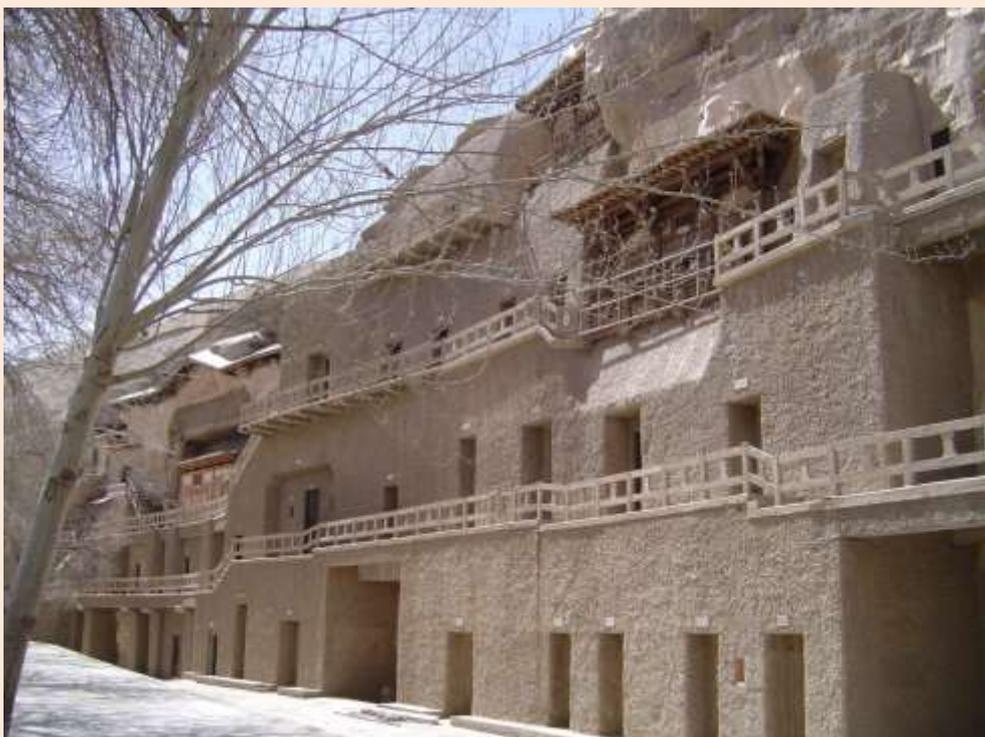
化石の様な樹林が道路脇に広がる。  
樹齡1000年と聞か  
が、背丈はほんの2  
m くらいしかない。



長道中の疲れが一気に吹き飛んだ！

莫高窟のシンボルである第96窟の九層の窟檐が目の前にそそり立っている。

中が全て吹き抜けになっていて、33mの弥勒大仏が安置されており、北大仏と呼ばれている



1600mに渡る断崖に掘られた600以上の洞窟内は無数の壁画、仏像等の仏教芸術で飾られている。

だが、見学出来るのは保存の為に、限定されている。

交易で莫大な富を得た者がスポンサーとなって、西暦366年から1000年間に渡って、建造されたそうだ。



鳴沙山に向かった。  
前面に見えて来た。

これ全て砂！！

標高700mの砂山も  
有るという。

日本に飛来する黄  
砂はこれか～??



砂漠の小旅への足となる、  
2こぶラクダが砂山の麓に待  
機していた。



砂山に点々と蔭模様  
が見えた。その先  
には人影が。

頑張っているな～！



砂山の谷間に三日月形の泉“月牙泉”  
その横に建つ楼閣。

幻想的な感じに包まれます。



砂山登山に挑戦。  
3歩登って、2歩落ちる感  
じで一向に進まない。

音が砂に吸収される静寂  
な世界。唯々、砂を踏む  
足音だけが聞こえる。

登る時に砂がこんなに崩  
れたのでは、山が低くな  
るのではと心配。

余計な危惧だった！  
風が砂を元に吹き上げて  
くれるのだそうだ。



朝日にくっきり浮かぶ、鳴沙山稜線が綺麗。 当に自然が作る砂の芸術だ！